

北方四島の返還を！ 平和行動 in 根室

今年の平和運動強化期間（6月～9月）の締めくくりとなる「2012平和行動in根室」が9月8日～9日の日程で、根室市で開催されました。

『2012平和行動in根室に参加して』

運輸労連 ヤマト運輸労組滋賀支部 平林 真彦
「2012平和行動in根室」に参加させていただいて多くのことを学び、大変勉強になるとともにこの機会を与えていただいたことに感謝し、本当に貴重な経験をする事ができました。

正直なところ、この平和活動がどのようなものかまったくわからないまま参加しましたが、研修・セミナーを通して、自分はある程度これまでの知識で北方領土問題について十分理解しているものだと思っておりましたが、まだまだ何もわかっていなかったんだと痛感しました。

「北方四島学習会」では北方領土の現状と問題点や北方四島の自然について講演を受け、北方領土問題の根幹や日本・ロシアそれぞれの動き、北方領土問題に関する取り組みや今後の課題など、今まで知らなかった多くの知識を得ることができました。また、北方四島交流センターや北方館などの施設で色々な資料等を閲覧し、長い歴史の中で今日に至るまでに様々な北方領土に関する出来事があったのだと感じました。中でも国後島、択捉島などでは現在ロシアの施設、建造物が次々と整備されロシア化が急速に進んでいる現状を目の当たりにして非常に驚きました。

「2012平和行動ノサップ集会」でも北方領土問題に対する様々な思いを聴くことができ、これまでに返還運動に主導的に関わり組んでこられた元島民の方々が高齢になってきている現状を踏まえて、この問題が風化・衰退しないよう、私たちがのような若年層の人たちが中心となって粘り強く領土返還に向けて活動していかなければならないと感じました。

核兵器廃絶を求めて！ 平和行動 in 広島（その2）

『2012平和行動in広島に参加して』

電力総連 きんでん労働組合 望月 亮輔
平和行動in広島に参加させていただきました。自身は初参加であり、また連合滋賀のリーダーを任せられ、戸惑いながらでしたが無事団体行動を行うことができました。

核兵器廃絶2012平和ヒロシマ大会では、折り鶴の献納に参加させていただきました。全国から約6,000人の参加者が大会に参加していたこともあり、すごい数の折り鶴が献納されていました。ピースセミナーでは、被爆体験者の講演で、道には生きているのか死んでいるのか分からない人がたくさんいた、全身火傷をしているが自分が火傷をしていることに全く気づかない人、病院がただ死んでいく人の集まる建物であったことなど、想像もできないような話を聞きました。講演を聞き原爆の恐ろしさを改めて考えさせられました。セミナー後、ピースウォークに参加しました。約1時間30分ほどかけて平和記念公園の慰霊碑や記念碑をめぐるながら、ピースガイドから説明を聞き歩きました。世界遺産でもある原爆ドーム、原爆の子の像、原爆死没者慰霊碑などピースガイドの説明を聞きました。ピースセミナーの後に、平和記念資料館に立ち寄り被爆状況の映像ビデオを観賞しました。

多くの貴重な体験をさせて頂きました。世界が平和になるよう自分にできることがあれば参加していこうと思います。

JAM ヤンマー労組滋賀支部山本分会 金沢 慎也
「2012平和行動in根室」に参加しました。先ず、8日には北方四島交流センター（ニポロ）にて「北方四島 学習会」がありました。「ふるさと北方四島への思い」では歯舞諸島の勇留島出身の高橋孝氏が講師で、「私たちが住んでいた頃は鮭・鱒・昆布など海洋資源が豊富で非常に美しい所だったが、終戦後突然やってきたソ連軍に色丹島にある缶詰工場に連れて行かれ、そこでの強制労働や、そこから命からがら逃げたこと等、又こうして話をしている間にも胸が詰まる思いです。」と話をされているのを聞き、元島民にとってはまだまだ戦争は終わっていないのだと感じましたし、切実な



ふるさとへの島への思いも感じ、やはり直接元島民の方から聞く話は思いが伝わってきました。「北方四島の諸問題」では、北方四島の現状を聞きました。今現在島では不法占拠をしているロシアが、インフラの整備を進めている事や、海洋資源の乱獲をしていることを聞きました。北方四島という言葉は知っていましたが、そのほかは知らない事ばかりでこの学習会に参加させて頂き非常に勉強になりました。

9日には納沙布岬にて「2012平和ノサップ集会」が開かれ、岬からみる歯舞諸島がいかに近い所にあるかがよく分かりましたし、ロシアの軍船がかなり近いところまで監視をしながら来ていたのには驚きました。今回の平和行動では貴重な体験が出来、参加して本当に良かったと感じています。

自動車総連 ダイハツ労組竜王第一支部 野村 直生
初めて平和行動に参加させていただきました。被爆地の広島は学生の時に教科書等で習っただけで、今回広島の平和行動に参加することができ、実際に自分の目で見て話を聞くことで、戦争・原爆の悲惨さを知る貴重な経験ができました。

被爆者の坪井直さんに、原爆投下の当日から今に至るまでの出来事を詳しく話していただいたことで、原爆投下直後の街の様子や、その後の病院での1つ1つやり取りが手に取るように解り、改めて被爆地の悲惨な状況を想像することができました。

また、原爆の後遺症が67年たった今でも残っているとの事で、震災で大きなダメージを受けた福島原発のことが思い浮かび、本当に今原発のありかたについて賛否を問われていますが、私自身ももっと真剣に原発について考えないといけないと思いました。

ピースウォークでは、原爆ドームをスタートし、広島平和記念公園をまわりましたが、原爆ドームやアオギリを見ると、原爆のすさまじいエネルギーの熱量を感じることができた反面、二度と同じ事を繰り返さないようにするための平和行動であることを痛感しました。

2泊3日という短い期間でしたが、自分たちがこれから、どうして行くべきなのかを考えさせられる研修でした。



連合滋賀

日本労働組合総連合会滋賀県連合会

2012年9月28日

連合滋賀 第236号

大津市松本2丁目10-6

電話077-523-0500

発行・山田 清

編集・土田 薫

(定価 1部6円)

印刷 ヌメディア株式会社

滋賀県に対する要求と提言(案)を討議 2013政策・制度要求討論集会を開催

滋賀県に対する2013年度に向けた「政策・制度要求と提言」の内容を討議する討論集会を9月7日（金）、ライズヴィル都賀山で開催しました。討論集会には各構成組織、地協からの代表に加え、連合滋賀議員団の地方議員も加わり全体で100名の参加者となりました。

集会の冒頭、主催者を代表して挨拶に立った連合滋賀山田会長は、「連合は、働くことを軸とする安心社会を新たなビジョンとして確認し、厳しい経済、雇用情勢のなかで、政策・制度の実現に取り組んできた。連合滋賀として、県とのコミュニケーションを拡充させ政策・制度の実現を図りたい。」とあいさつがされました。

その後、松元事務局長から「2013年度 連合の重点政策」について説明がされ、連合滋賀「2013政策・制度要求と提言(素案)」については、畑政策委員会委員長、仁尾・河村政策委員、上田副事務局長から提案説明を行いました。

素案の作成については、政策委員会を中心に2012年度の回答を踏まえ、県の部局協議、総括協議における意見交換を重要視する立場から要求項目を精査し、12課題60項目としました。

質疑討論では、個別の課



題については、①人権施策の推進について、啓発活動だけでなく人権施策基本方針や推進計画の総合的な県の施策を問うことが重要。②児童虐待について、防止のための専任職員の配置や市町への支援を拡充していくことを重視すべき。③環境政策の課題については、年々重要視されており、琵琶湖の保全対策について強化。④県立高校の統廃合について原案のとおりに進むようであるが、一部の説明だけでなく、幅広く県民・保護者への十分な説明をされるよう要望。⑤地元企業への若年者採用にかかわって、教育段階において人材育成ができるよう要望。全体的な意見として、①部局を横断する課題について、整合性のある要求内容にし、当局協議を強化。②前年度の要求の回答を踏まえ、問題、課題を明確にしながら、次年度の要求課題が理解しやすいように工夫されるよう要望。などについて意見がだされました。

事務局から「これらの意見を踏まえ必要な文言修正を行った上で、執行委員会が最終確認をし、滋賀県との部局協議、さらには知事を交えた総括協議の中で要求と提言の実現を目指していきたい」と答え、参加者全体で「政策・制度要求と提言(案)」を確認し討論集会を終えました。



交流を深めた「ワールドカフェ」 「気付き・発見・いまどきのジェンダー」女と男のいきいきフォーラム

9月8日(土) 近江八幡市文化会館において、女性委員会・青年委員会の共催で「女と男のいきいきフォーラム」を開催しました。

「気付き・発見・いまどきのジェンダー」をテーマに「男性の育児・社会参画が会社(社会)を変える!」と題して、株式会社ソーレ代表であり、NPO法人ファザリングジャパンの理事でもある東浩司さんに講演をしていただきました。今回は「参加者間の交流」をより多くとれる、「ワールドカフェ」という新しいグループワークの手法を取り入れ、「男女の違い」について、「もしあるとしたらどのようなときに感じるか?」「結婚はしたいか?してよかったか?子どもは何人ほしいか?何人いてどうか?」「職場、仕事の場面での女性が男性に望むこと、男性が女性に期

待すること」の3つのテーマについて、グループに分かれ、席替えを加えながらの意見交換で、より多くの人たちとの意見交換ができました。

家庭と職場、それぞれで感じる男女の違いなどの意見交換をし、それぞれに気づきがあり、今後に活かしていきたいと感じるフォーラムでした。



東日本大震災から1年半 傷跡は今もなお 中小労組連絡会議 経済労働事情視察交流研修会

9月9日(日)、10日(月)に中小労組の活動強化を図ることを目的として、12単組20名が東日本大震災によって被災された宮城県の各地域の現場視察を実施しました。連合宮城の被災当時の状況や今後の復興に向けての取り組みについて報告をもとに意見交換を行い、参加者自身が震災に対する認識を新たにしました。

2011年3月11日の東日本大震災で津波被害にあった仙台市岡田、荒浜地区、名取市閑上地区、石巻市では、津波により損壊した住宅や小学校がそのまま残されており、塩分を含んだ農地は雑草が生い茂り、震災から1年6か月を経過しているが未だに復旧の目途すら立っていない状況です。復興住宅の建設も進んでおらず、不燃ガレキもヤマ積みになったままで処理も追いついていません。

連合宮城では、被災当日の情報不足のなか、手探り



連合宮城から震災時の取組の説明を受ける参加者

の状況で対策本部を設置し、連合ボランティアの受け入れに奔走され、現在も仮設住宅におられる被災者の生活支援や震災で親を失った子どもたちの支援など多くの課題を抱えながら、復興・復旧に向けた活動がされている。被災地の復興に向けて、私たちに何ができるのか。被災地の状況を多くの組合員に語り継ぎ、1人でも多く、ぜひ宮城を訪ねてほしい。



多くのボランティア参加のもと アジア・アフリカ支援米を収穫

アジア・アフリカ支援米滋賀県実行委員会(連合滋賀と「食とみどり・水を守る滋賀県民会議」で構成)では、連合滋賀の組合員や連合議員団をはじめとするボランティアの参加で、残暑厳しい暑さの中、9月15日(土)に高島市において稲刈りを行いました。

5月に多くのボランティアの参加で手植えをした苗は、今夏もすくすくと育ち黄金色に垂れ下がり、稲刈りを待っているようでした。今回の稲刈りにも、約30名のボランティアが集まり、普段使えない鎌を使って収穫しました。収穫されたお米はアフリカ・マリ共和国に贈られます。

世界には満足に食事ができず毎日多くの人たちが亡くなっています。今一度「食」について考え直し、また日本の食糧自給率についても考える良い機会になった1日でした。

満身に食事ができず亡くなっていく人々がなくなる事を心から願い、この運動の意義が少しでも多くの人々に伝わるよう、今後も実行委

員会はさらなる取り組みを進めてまいります。休田をお借りしている方をはじめ、多くの関係者に感謝いたします。



連合滋賀と民主党滋賀県連との連携強化 田島一成、徳永久志、三日月大造 衆参国会議員と意見交換

連合滋賀は、9月15日(土) 大津プリンスホテルにおいて、民主党滋賀県総支部連合会と意見交換会を行いました。

連合滋賀からは、山田会長をはじめとする三役8名、民主党県連からは、田島一成代表、徳永久志代表代行、三日月大造筆頭副代表をはじめ、9名が参加され、政権交代以降における民主党の政策の成果や課題、特に、社会保障と税の一体改革、エネルギー政策について意見交換を行いました。

連合滋賀の組合員からは、国会議員の活動が見えにくく、また、マスコミを通じた情報により、民主党の政策が正しく伝わっていないなどの声があるなか、もっとわかりやすく多くの組合員との対話活動を重視していくよう要望しました。

第46回衆議院総選挙、第23回参議院通常選挙施行までの期間は、残りわずかです。連合滋賀は、連合の求める政策の早期実現に向けて、民主党政権を維持するための体制強化を図っていかねばなりません。

